6．発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉（敬称略）

会沢　泉、新井和枝、荒井美奈子、飯塚泰子、井上晴江、内田信治、海老原サナエ、大井美智子、大曽根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、神木光治、川部栄子、小林こずい、小山エミ子、斎藤尽志、酒井　昭、佐久間ひろ子、佐々木定男、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、瀬戸加代子、高木千恵子、高橋明美、戸澤竹二、中嶋末子、仲里しげ子、永塚美千代、並木宗次、野岡由紀子、野沢松代、林きぬ子、比嘉洋子、三村美代子、森脇やよい、山下一枝、若尾久美子、若林紀美代。

〈整理作業参加者〉（敬称略）

石垣ゆき子、小澤千恵子、小林登喜江、斎藤尽志、須藤さち子、杣木嘉図子、高橋けい子、丹治つや子、冨岡康子、中田藤子、中野和子

凡　　例

1．本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1)　縮尺は原則として

遺構配置図	1:300
遺物出土状況図	1:80
遺構平面図	1:60
炉などの詳細図	1:30
土器実測図	1:4
土器拓影図・石器実測図	1:3

(2)　遺構断面図の水糸高は海抜高を示す。（単位はm）

(3)　遺構図中の細数字は、床面もしくは確認面からの深さ(cm)を示す。

2．住居跡名・土坑名・集石名は、遺跡内の通し番号にしている。

3．胎土粒子に関する各項の基準は次のように定めた。

小礫；2.0㎜以上、粗砂；0.2～2㎜、細砂；0.2㎜以下。

4．本書では、岩宿時代を使用した。これは、先土器時代・無土器時代・旧石器時代などと言われていたものである。発見遺跡名を時代名とした。

5．本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

2　1993年度　埋蔵文化財試掘調査一覧

No.	遺跡・地点	所在地	面積(㎡)	原因	調査期間
1	西ノ原遺跡第63地点	苗間162-3,169	147	共同住宅建設	4／13～4／22
2	中沢前遺跡第6地点	苗間202-1	506	個人住宅建設	4／23～4／26
3	西ノ原遺跡第64地点	苗間94-1	327.05	共同住宅建設	4／27～4／28
4	神明後遺跡第1地点	苗間281-1	615.47	共同住宅建設	5／6～5／11
5	神明後遺跡第2地点	苗間295-2,299-3	1,688	道路築造	5／12～5／20
6	大井戸上遺跡第2地点	大井701-1	350	個人住宅建設	6／11～6／15
7	西ノ原遺跡第65地点	苗間145-1	615	共同住宅建設	6／7～6／11
8	西ノ原遺跡第66地点	苗間133-2	474	共同住宅建設	6／30～7／19
9	本村遺跡第30地点	大井155	411	個人住宅建設	7／28～8／30
10	本村遺跡第31地点	大井154,155	484.19	共同住宅建設	8／4～8／5
11	東久保西遺跡第2地点	亀久保419-1 他	75	竪坑工事	8／24～8／26
12	小田久保遺跡第1地点	大井1,249-1	498.97	個人住宅建設	9／21～10／1
13	亀居遺跡第35地点	亀久保1,012-7	470	個人住宅建設(曳家)	9／28～11／5
14	本村遺跡第32地点	大井351	14,310	共同住宅建設	11／9～11／25
15	本村遺跡第33地点	大井107,427-1	337	駐車場造成	11／11
16	中沢前遺跡第7地点	苗間202-1,202-3	687	駐車場造成	11／26～11／29
17	東台遺跡第20地点	大井649-27	5	個人住宅建設	1／30
18	本村遺跡第34地点	大井533-5	1,013	共同住宅建設	12／2～12／3
19	西台遺跡第2地点	大井897-1，897-2	6,149	遊技場建設	12／13～3／31
20	西ノ原遺跡第67地点	苗間159-2	308.05	倉庫建設	1／20～1／21
21	亀居遺跡第36地点	鶴ケ岡1-2-2	798.11	礼拝所建設	2／17～2／18
22	中沢前遺跡第8地点	苗間206-2	137	事務所建設	2／3～2／4
23	苗間東久保遺跡第19地点	苗間637-14,15,16	350	分譲住宅建設	2／8～2／15
24	亀居遺跡第37地点	亀久保1,003-2,-6 他	566	店舗併用住宅	2／18～2／25
25	東台遺跡第21地点	大井713-11,12	299.94	個人住宅建設	3／7～3／11
26	西ノ原遺跡第68地点	苗間字西ノ原91-2,6	285	店舗併用住宅	3／22～3／25
27	江川東遺跡第1地点	東久保1-145-14	52.38	個人住宅建設	3／24～3／25
合計			31,959.16㎡		

調査地は、苗間地区12件、大井地区10件、亀久保地区3件、鶴ケ岡地区1件、東久保地区1件である。遺跡別では西ノ原遺跡6件、本村遺跡5件、亀居遺跡3件、中沢前遺跡3件、神明後遺跡2件、東台遺跡2件、大井戸上遺跡1件、東久保遺跡1件、小田久保遺跡1件、西台遺跡1件、苗間東久保遺跡1件、江川東遺跡1件であった。

これまでの調査で確認されたのは土坑のみで、遺物は関山式と加曽利Ｅ式の土器が出土しているが、ごく限られた地点（第2地点）からだけの出土であり、実のところ遺跡の範囲については、未だ確定していない。本地点は、盛土が約80cm前後あり、遺構の確認面まで120cmを超える深さの表土を除去しなければならず、排土置場に苦慮した。確認方法は工事で地下へ影響を与える部分についてのみ削平した。その結果、南東コーナーで縄文時代の包含層特有の締まり強い暗褐色土と北東部で土坑を確認した。包含層は厚さ確認のため掘り下げたが、前期土器片が数点出土したのみである。土坑内にはソフトロームと黒色土がサンドイッチ状に入り込み、中から陶器片と縄文土器片が出土した。

5－2　中沢前（なかざわまえ）遺跡第７地点　　埼玉県遺跡 No.30-044

前地点とは南側道路をはさんだ部分で、客土が１ｍと厚い。第４図のように４本のトレンチをいれ精査を行なったが、包含層も遺物も確認されなかった。

5－3　中沢前（なかざわまえ）遺跡第８地点　　埼玉県遺跡 No.30-044

トレンチ２本を設定し、重機で表土除去後、人力で精査をおこなった。その結果調査区南側にグズグズのロームブロックを多く含む根除け溝と思われる落ちこみを確認しただけであった。全測図を作成、全景写真を撮影し終了した。

1993年度に実施した３箇所及び既調査の結果から、本遺跡は、遺物散布地的性格の強い遺跡である可能性が高くなってきている。

6－1　神明後（しんめいうしろ）遺跡第１地点　　埼玉県遺跡 No.30-041

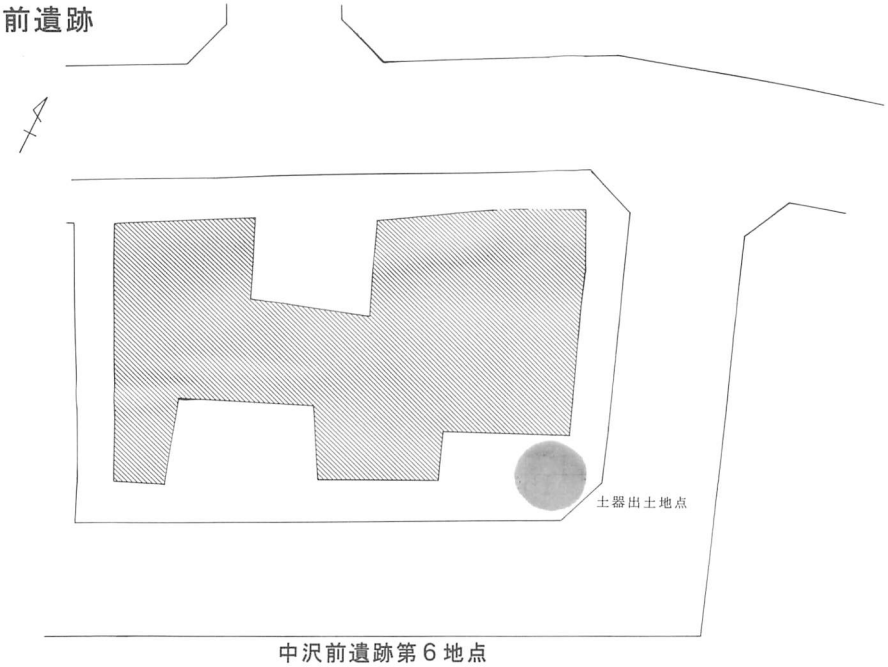
確認も含めて初めての調査を実施した遺跡である。遺跡は中沢前遺跡の東側にひろがり、東武東上線に93年11月開設した「ふじみ野駅」まで、徒歩数分の地にある。富士見市の外記塚遺跡とは間にさかい川をはさんで真向かいの位置にあたる。外記塚遺跡からはすでに奈良～平安時代住居跡１軒、近世の人骨出土の土壙墓・井戸跡等が発掘調査され概要が報じられている。

本遺跡の標高は16～15mで、外記塚遺跡と比較して約1.5m程高い。調査は東西に幅２ｍのトレンチを３本設定し、まず重機によって約40cm前後の表土を除去する。表土は上層が黒褐色土。下層はロームブロック混じりの黒褐色土。遺構はいわゆるイモビツと、土坑との認定は困難ながらも、底面が段をもち覆土もしまりがある遺構を確認した。遺構が僅かであったので、確認調査の範囲内で記録化した。また、遺構内ではないが、須恵器の皿・坏片、瀬戸美濃産の擂鉢等が出土した。後述するが第2地点で平安時代の住居跡が確認されているところから、本遺跡は平安～中世にかけての集落跡であった可能性が高い。

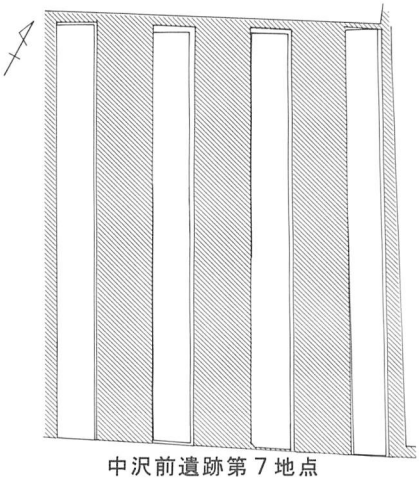
6－2　神明後（しんめいうしろ）遺跡第２地点　　埼玉県遺跡 No.30-041

調査にはいる遺跡現況は南側が畑、北側が山林であったため遺構確認は畑地部分に限られた。幅２ｍのトレンチを７本、図のように設定した。重機で約50cm前後の表土を除去し、人力で遺構確認

中沢前遺跡

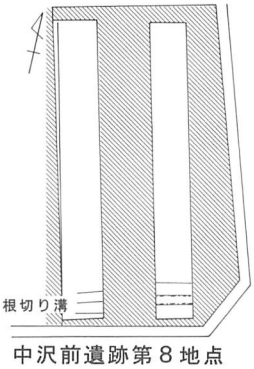


中沢前遺跡第６地点



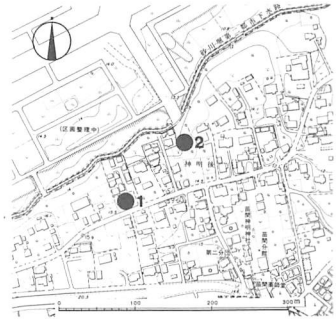
中沢前遺跡第７地点

中沢前遺跡調査地点

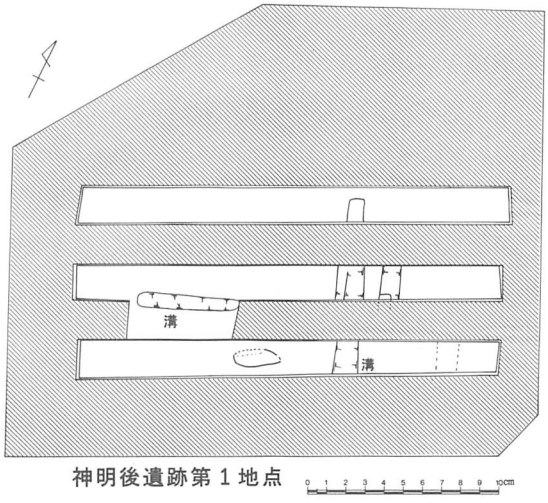


中沢前遺跡第８地点

神明後遺跡



神明後遺跡調査地点

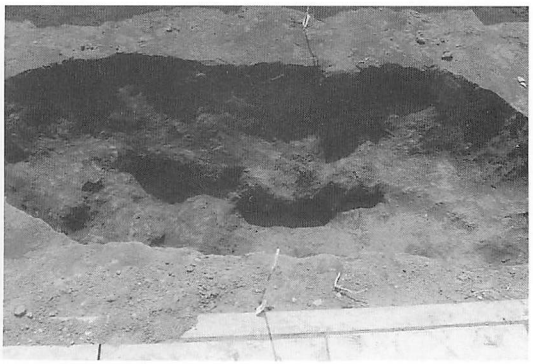


神明後遺跡第１地点

第４図　試掘調査位置図及び調査区域図(3)

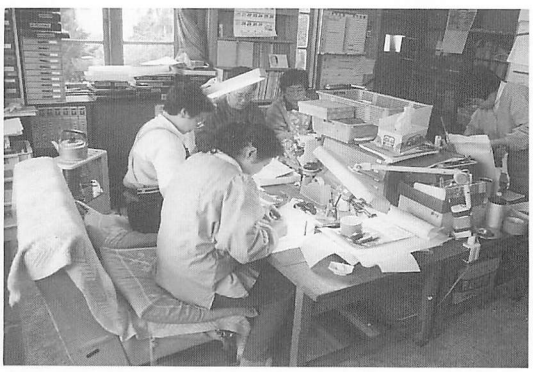
試掘調査 3

図版　3

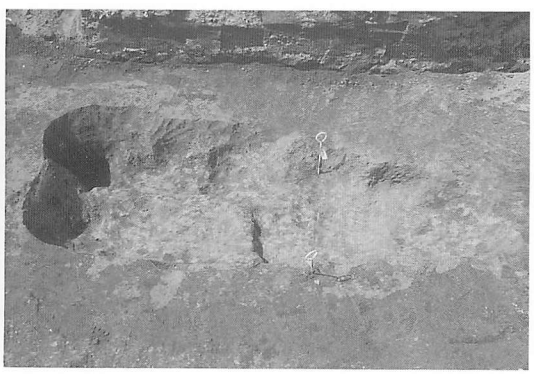


中沢前遺跡第 6 地点・土坑

中沢前遺跡第 7 地点・トレンチ



中沢前遺跡第 8 地点　遺物整理風景



神明後遺跡第 1 地点・土坑